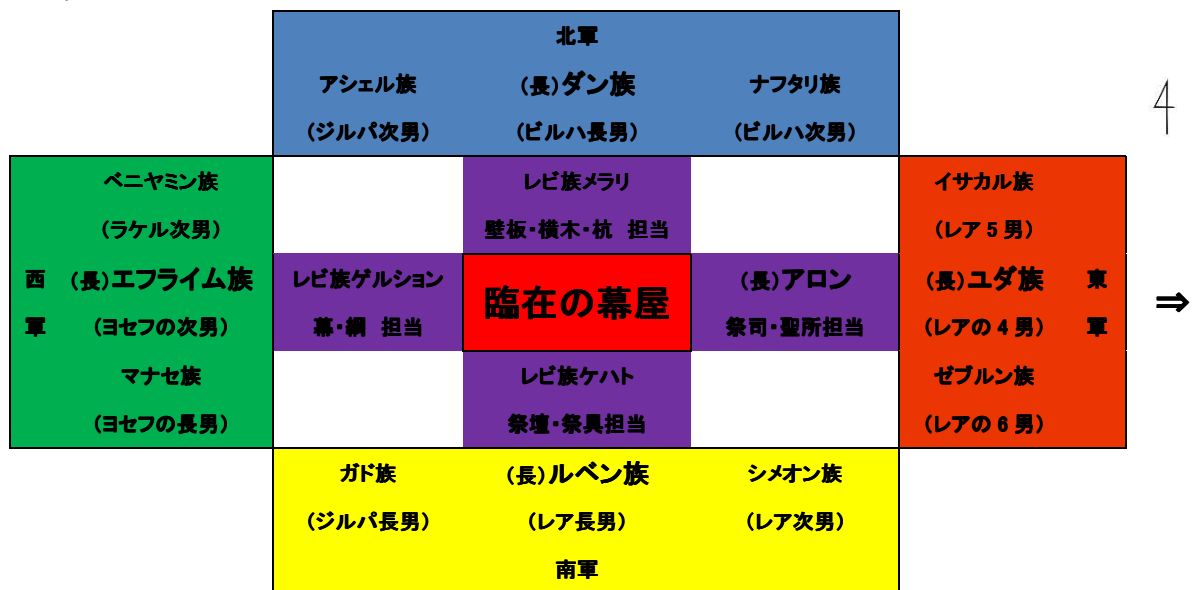


旧約聖書を読んで感じること(22) 民数記「いざ、出陣」

イスラエルの民はシナイ山で十戒を受けた後、神がアブラハムに約束された「乳と蜜の流れる地」を目指して出発することになりました。まず人口調査して、共同体全体を把握するところから始まりました。兵役に就くことのできる20歳以上の男子を全員、戸籍登録し、民の数を数えています。ですからこの文書を民数記というのでしょうか。その数は603,550人というのですから、女、子どもを加えると全体では200万人以上になるのでしょうか。ありえない数字と言えましょう。

12部族を一単位として、3部族をまとめて、4つの軍団を作りました。幕屋を中心に、それを守るレビ族、そして全体を東西南北の各軍に分かれて守り、宿営を作ります。このグループ分けが非常に私には興味深いものがありました。



長男ルベン族はヤコブによって「誉を失った初穂」と評価され、四男ユダが取って代わりましたので、兄弟の序列が変わりました。そして、行進する時は、アロンのラッパを合図に出発します。

- 先頭 : モーセ、アロン、契約の箱
- 東軍 : ユダ族を指導者にその弟たちの部族が東軍、その後に幕屋用具運搬
- 南軍 : 長男、次男部族のグループ、その後に祭具運搬
- 西軍 : ラケルの子、ヨセフの次男、長男と、ベニヤミン部族のグループ、
- しんがりの北軍 : ラケルの側女ビルハの長男ダン族が指導者となったグループ

レビ族のモーセとアロンは指導者でしたので、すべてを仕切り、口下手なモーセに代わり兄アロンが祭司となり、レビ族を兵役に就かせず、アロンに属させ幕屋の警護、運搬役とさせました。400年も前の先祖の言い伝えに従って、しかも母親系統で繋がりあっているというのが、興味深い点です。

イスラエルの人々は主の命令によって旅立ち、主の命令によって宿営した。彼らはモーセを通してなされた主の命令に従い、主の言いつけを守った。(民9:23)とあります。

出発前に、イスラエルの全ての部族の指導者が進んで臨在の幕屋のために、捧げものをします。全部族が、金、銀の器もの、小麦、油、香料、牛・ヒツジ・ヤギなどの家畜を全く同じ分だけ捧げます。祭壇用に特別に6台の牛車を捧げます。信じられない豊かさです。祭司の指導力、権力の大きさと、民の従順な忠誠心が描かれています。けれども、旅が始まると大変です。荒野の旅です。食べ物、水に飢えて、すぐに、何度となく、モーセに苦情、不平、不満をぶつけ、激しく抵抗し始めました。